

# 日本庭園ものがたり

## 【第9回】世界に広がるジャパニーズガーデン

### —国際社会における日本庭園の意義と役割—

東京農業大学造園科学科 教授 鈴木 誠

#### 1 海外の日本庭園の現状

日本庭園といえば、京都をはじめとして日本を訪れる多くの外国人観光客を魅了しています。外国からの日本旅行では欠かせない観光スポットに間違いありません。

さてそこで、みなさんは日本庭園が外国にも造られていて、現地において人気の観光スポットになっていることをご存知でしょうか。筆者らが中心となってまとめた『「海外の日本庭園」調査報告書』（(社)日本造園学会、2006年日本語版、2007年英語版）では、432の公開されている海外の日本庭園をリストアップし（2005年末調査時）、代表的なもの90庭園についてその概要を写真と共に紹介しました。ところがその後調査を進めていくと、さらに多くの日本庭園があり、また最近新しく造られたものを加えると、世界中には500以上の公開日本庭園があることがわかってきました。

加えて、21世紀になり本格的かつ大規模な個人の日本庭園が、アメリカ、ウクライナ、南アフリカなどに完成しています。そして、この日本庭園ブームはさらに隆盛する傾向をみせているのです。

#### 2 ヨーロッパの人々がふれた最初の日本庭園

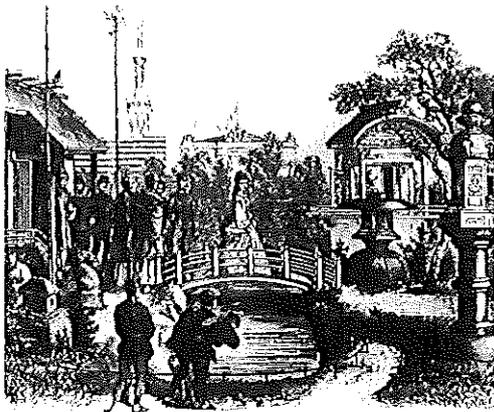
日本人が海外で造り上げた最初の本格的な日本庭園は、1873年（明治6年）ウィーンで開催された第5回万国博覧会に、明治政府が出展した神苑風庭園（設計：津田仙）

でした。その形は祠を造り神社の庭園を模したものでした。周囲には日本の園芸文化や美術工芸品を紹介するコーナーが設けられ、さながら神社境内と縁日のような展示場で、3人の日本人庭師が現地施工し完成させたものでした。日本が正式に参加した最初のこの博覧会は、入場者総数約722万人を数えました。明治維新によって誕生した新しい日本。その国際的イメージは、この時から形づくられ始めるのです。

この庭園は万博会場を訪れた、ヨーロッパ各地からの市民そして皇帝フランツ・ヨーゼフ I 世、王妃エリザベトにいたるまで、数多くの人々の称賛を得ました。そして、この頃に渡欧した美術工芸品などはじめとする日本の文物、文化が、ジャポニズムと呼ばれる日本ブームを引き起こしたことはよく知られていることです。日本製の美術工芸品の収集に比べ、日本人による設計施工を必要とした本格的な日本庭園を持つことは、当時の欧米ではそう容易いものではありませんでしたが、19世紀末から20世紀初頭にかけて数多くの日本庭園、あるいは日本風の庭園が富裕層を中心に邸宅庭園の一角に造られました。中には、広大な面積の日本庭園を造り上げた欧米人もいたのです。

#### 3 近年さらに増え続ける海外の日本庭園と日本庭園ファン

さて、ウィーン万博から100年後の1973年までの間に、海外に造られた公開日本庭



第5回万国博覧会の日本政府出展庭園  
(オーストリア、ウィーン、1873)  
王妃エリザベットの来園風景。左手に祠、手前には3人の日本人庭師が描かれている。

園（個人庭園以外）の数は90余りでした。そして、その後の10年ずつでは、1974～1983年には50庭園余。次の1984～1993年、1994年～2003年の各10年間ではそれぞれ100を超える数の日本庭園が、日本国外で新しく造られ公開されているのです。さらに、その後も年間10以上の日本庭園が造られ、公開されています。まさに世界は「ジャパニーズガーデン・ブーム」といってよいでしょう。

しかし、この数は日本の機関や日本人造園家に関与し、公共の場に造られた庭園だけをカウントしているので、海外で独自に造られたもの、個人所有の庭園は挙げていません。従って、個人所有の庭園を加えると、「今も海外のどこかで、日本庭園が造られ続けている」という現状なのです。

この要因は様々に考えられます。海外から訪れた外国人が日本庭園と日本の文化に接して直接体験したこともあるでしょう。また、海外に造られた日本庭園が日本庭園ファンを増やしてきたこともあります。これとは別に、具体的に造園された庭園以外でも、海外において日本庭園ブームを助長する出来事が1990年代以降数多く見受けられます。

例えば、1993年英国において日本庭園協会 (Japanese Garden Society) が設立され、機関誌「借景」(季刊) を創刊、現在は英国以外にも多くの会員を持つ組織となって



ゴールデンゲートパークのジャパニーズ・ティーガーデン (米国サンフランシスコ、1894)  
100年以上の歴史をもつアメリカ最古の日本庭園。年間入園者数200万人余りを数える。

います。

1995年「フランスの日本庭園」(ベルナール・ジャネル著) が出版され、フランスに現存する日本庭園が網羅的に紹介されました。1996年になると、アメリカで国際日本庭園協会が設立され、第1回目の国際日本庭園シンポジウムをポートランドにて開催し、以後このシンポジウムは隔年開催で継続され第5回は2007年9月東京で開催されました。同じく1996年Web上に「Japanese Garden Database」がペンシルバニア大学により開設され、後に民間運営され数多くの日本庭園ファンをひきつけて現在に至っています。1998年にはアメリカにて日本庭園専門の商業雑誌「Roth Tei-en」(隔月刊) が創刊され、1999年には「アメリカ太平洋岸の日本庭園」(ケンドール・ブラウン著) が出版され、その歴史と現状がまとめられています。

この後もジャパニーズガーデン・ブームを助長する動きが色々ありましたが、2005年海外の日本庭園では歴史の長い英国において、ジル・ラギット博士が学術論文「英国の日本式庭園 1850-1950」をまとめあげ、日本でも新聞記事となり話題となりました。そして、2007年春アメリカのワシントンDCでは、ナショナルジオグラフィック本部ギャラリーにて「日本庭園展」が開催され、ロサンゼルス国立日系アメリカ人博物館では特別展「Landscaping



モリカミミュージアム日本庭園（米国フロリダ州デルレイ，2001）  
面積：6.1ha 設計：栗栖宝一 様式監修：鈴木誠  
ワニの住んでいた池と湿地を活かして造園された21世紀完成の日本庭園。  
日本文化を紹介する専門博物館として規模は世界最大。

America: Beyond the Japanese Garden」が開催されました。最近では2009年春、カリフォルニア州立大学にて「日本国外の日本庭園に関する国際会議」が開催され、専門研究者の他300人余りの日本庭園デザイナー、日本庭園オーナー、そして日系人や学生が集まりました。

皆さんも実感している通り、21世紀になり国際的な日本食や日本文化の流行が起こっています。その要因は様々に考えられますが、結果としてジャパニーズガーデン・ブームはさらに広がりを見せているのです。海外旅行や海外ビジネスが一般的になることに呼応して、様々な国の人々が日本文化と日本庭園に接する機会を増やし、自宅に、自分の町に、自分の国に日本庭園を造ろうという機運が醸成されてきています。

#### 4 国際交流に貢献する日本庭園

第2次世界大戦が終わり20世紀後半になると、日本は原材料を輸入し製品を輸出するといった加工貿易による経済発展を謳歌してきました。これにともない、世界各国との国際交流を進めてきたのです。

この国際交流は、貿易などのモノの往き来だけでなく、人的交流、そして文化交流と様々な展開をみせています。こうした、交流を「姉妹都市」「友好都市」といった自治体間の関係で進めてきたのも、20世紀後半の国際交流の特徴とってよいでしょ

う。現在では、姉妹提携自治体数は844、自治体間の姉妹提携件数は1580にもものほり、過去20年間にその数2倍に増加しています。これに呼応して、友好親善の証として世界各地に多くの日本庭園が造園されてきたのです。『「海外の日本庭園」調査報告書』には432庭園がリストアップされましたが、「そのうち152件（35%）が、日本の自治体と海外の都市（地区を含む）との間に、友好・親善の記念として造られた庭園」でした。これに、日本政府が寄贈した日本庭園と調査時点以降の新設庭園を加えると、友好交流の役割をもって世界中に造られた日本庭園は170余りにもなり、現在もその数はさらに増えています。近年では、特に豪州そして中国各地で新しい日本庭園が造られています。市民レベルの友好交流が自治体間の交流となり、その強力なメディアが友好・親善の記念として造られた日本式の庭園であり、その造り手となり国際交流を担ってきたのが現代の造園家、日本各地で活躍する造園建設業に携わる人々の技術と技能なのです。

#### 5 海外の日本庭園：その存在意義と役割

これまで数多くの日本庭園が海外に造られてきましたが、様々な角度から検討してみるといくつかの観点からその存在意義と役割が見えてきました。

まずは、海外に日本庭園が造園された目的あるいは、庭園の持つ意義からみた5類型です。

- ① 商業的 (Commercial)：初期の万博に展示された物品販売のための日本庭園や、遊園地など商業施設としての日本庭園。
- ② 政治的 (Political)：日本政府が国威強調のために特に海外の博覧会に展示した

カウラ日本庭園（豪州カウラ，1977，設計：中島健）  
カウラ市は日本軍捕虜たちの悲しい歴史をもつ。戦没者慰霊のための日本庭園は、現在では日豪関係の国家交流と平和祈願のシンボルとなっている。

日本庭園や、大使館に付属した日本庭園など。

- ③ 文化的（Cultural）：文化紹介を目的として、博物館や美術館、植物園内に造られた日本庭園や、茶道紹介のための茶庭など。
- ④ 遊乐的（Pleasure）：自らの楽しみのために造られた日本庭園。主に個人庭園がこの範疇となり、個人所有から転じて公開された日本庭園が含まれる。
- ⑤ 友好的（Friendship）：自治体間の姉妹友好都市に造られた日本庭園や、日本の企業や団体により友好促進のために造られた日本庭園。

そして、時代を反映した海外の日本庭園の役割は6つに類型化することができます。

- ① 19世紀末～20世紀前半の万国博覧会の日本庭園：日本を世界に紹介するために政府出展として、万博会場に造られた日本庭園。
- ② アミューズメントパーク・商業施設としての日本庭園：万博の日本庭園などに刺激され、日常的に楽しむ異文化・異国情緒の場を商業的に提供した日本庭園。アメリカではしばしばJapanese Tea Gardenと名付けられた。
- ③ 日本趣味の個人庭園とその公開：19世紀末～20世紀前半にかけての日本庭園ブーム時に、富豪らが個人庭園として造園し、その後20世紀後半に一般公開された日本庭園。
- ④ 様式コレクション（テーマガーデン）としての日本式庭園：私的には富豪たちの大庭園の一部に個人庭園として造られたもの（後に公開）、公共的には植物園や公園の一角に日本地区、日本庭園として造られたもの。
- ⑤ 日系移民コミュニティの日本庭園：ア



メリカ、ブラジル、カナダなど日系移民のコミュニティの中心施設（文化会館、集会施設、学校など）に付随して造園された日本庭園。

- ⑥ 20世紀後半からの海外の日本庭園新たな使命：第2次世界大戦の鎮魂、慰霊を目的とした日本庭園。大使館・文化会館の日本庭園、自治体による姉妹都市・友好都市関係による日本庭園。

世界中でジャパニーズガーデン・ブームがあり、あちこちに日本庭園を造ることができた背景には、日本式の庭園が小さな規模から大規模なものまで、様々なスケールに対応したデザインが可能であること。自然材料を使い、現地の地形を尊重するのどこにでも造れること。そして、日本独自に発達した自然観（日本文化）を育んできた場であることなどから、特に日本文化紹介のための施設として、日本からも寄贈されるし、海外からも要望される、という事実があります。

日本庭園というと、「わび・さび」や「伝統」「古風」というイメージもありますが、今や世界に発信する現代日本文化の代表の一つであり、世界が目し求める「人に身近な自然の形」「静かで平和な空間」です。

友好・親善の記念として、日本文化紹介の場として造られる日本庭園。その造り手となり国際交流を担うのも、造園家、造園建設業に携わる人々の仕事なのです。

